

25. 頭蓋底腫瘍浸潤の $^{99m}\text{Tc-MDP}$, $^{201}\text{TlCl}_2$ 核種同時測定法
第1報 ファントムによる基礎的検討……………福本 光孝他…1128
26. 温熱療法の治療効果判定における ^{201}Tl シンチグラフィの有用性の検討……………西山 佳宏他…1128
27. $^{99m}\text{Tc-pertechnetate}$ の軟部腫瘍への集積の検討(第2報)……………岩宮 孝司他…1128
28. 骨シンチグラフィ上, 微小骨折と鑑別が困難であった肋骨転移例の検討……………大塚 信昭他…1129
29. 骨塩量測定装置 DCS-3000 の使用経験
—人体ファントムによる再現性の検討—……………八木 大他…1129
30. 動物腫瘍におけるモノクローナル抗体の腫瘍内分布の検討……………佐賀 恒夫他…1129

一 般 演 題

1. 重篤なウイルス性脳炎の脳血流シンチグラフィ所見

三谷 昌弘 福永浩太郎 佐々木真弓
藤原 尚美 松野 慎介 川崎 幸子
大川 元臣 田邊 正忠 (香川医大・放)
臼杵 豊之 (同・精神)

18歳女性。1992年1月感冒様症状が続き10日後不穏状態となり、昏睡と激しい四肢の痙攣が出現し人工呼吸器を装着した。脳波は全汎性徐波を認めた。昏睡が続いたが7月頃より意識レベルの改善がみられ抜管した。以後経過は順調で11月健忘症状を残し退院した。

CT, MR にて前頭葉, 側頭葉の萎縮を認めた。 $^{123}\text{I-IMP}$ 脳血流シンチグラフィは昏睡期の4月に行いびまん性の血流減少を認めたが、意識が改善し始めた6月末と退院時の10月の検査でもあまり改善はみられなかった。CT, MR の所見に比べて広範囲の血流低下がみられ、症状は改善したが脳血流量の改善は遅延した。

2. 脳血管れん縮に対するPTA前後の脳血流シンチグラフィ

松野 慎介 藤原 尚美 木村 成秀
森 泰胤 日野 一郎 川崎 幸子
大川 元臣 田邊 正忠 (香川医大・放)
入江 恵子 (同・脳外)

破裂脳動脈瘤術後の脳血管れん縮の治療法としてのPTAの効果判定における $^{99m}\text{Tc-HM-PAO}$ の脳血流シ

ンチグラフィの有用性について検討した。脳動脈瘤術後に症候性脳血管れん縮をきたしPTAを施行された女性3例で、脳動脈瘤の位置は内頸動脈後交通動脈分岐部2例, 前交通動脈1例であった。 $^{99m}\text{Tc-HM-PAO}$ SPECTはPTA前後に施行し、PTA後においては直後、1日後、1週間後に症例に応じて行った。 $^{99m}\text{Tc-HM-PAO}$ SPECTはPTAの効果判定に有用であり、PTA直後のSPECT所見よりも1日後および1週間後のSPECT像がより臨床症状を反映しており、PTAの効果判定には直後より1日後にSPECTを行う方がよいと考えられた。

3. $^{123}\text{I-IMP}$ と Table-look-up 法による脳血流測定

菅原 敬文 棚田 修二 村瀬 研也
井上 武 津田 孝治 奥村 明
八木 大 木村 良子 濱本 研
(愛媛大・放)

$^{123}\text{I-IMP}$ の脳からの洗い出しを考慮して2回のSPECT測定と1回の動脈採血によりrCBFを定量する方法(Table-look-up法)を15例に施行し、 ^{133}Xe 吸入法により求めたrCBFと比較検討した。大脳皮質領域でのrCBFは比較的妥当な値が得られたが、症例による変動が大きく、 ^{133}Xe 吸入法により求めたrCBFと乖離する症例も存在した。脳血液分配定数はばらつきは大きいものの、大脳皮質領域ではほぼ一定の値を示した。本法はrCBFを簡便に算出できる有用な方法と思われるが、疾患、喫煙、年齢による入力関数の変形や関心領域の位置のずれによる誤差など、今後さらに検討を加えて評価する必要があると思われる。